

はっちスケートアートプロジェクト 「堤にもどる」

八戸のスケート文化を
アートの目線で掘り起こし、発信！

八戸のスケートの歴史と、市民のみなさんのスケートの記憶から、八戸がなぜ「氷都八戸」と呼ばれるようになったのかを探り、八戸のスケートの発祥の地である「勘太郎堤」でのスケート大会を再現し、スケートの昔と今を繋ぐプロジェクト。

アーティスト：深澤孝史

●スケート人形をつくろう！●

過去のスケートの思い出や未来のスケート像を思い浮かべながら、堤に浮かべるスケート人形を市民のみなさんと制作。貴重な八戸のスケートの思い出を収集することができました。



●八戸のスケート発祥のため池で行われた大会を10分の1サイズで再現●

八戸のスケート大会のはじまりの地である類家堤（通称：勘太郎堤）の跡地である旧柏崎小学校校庭に10分の1サイズで勘太郎堤を再現します！市民のみなさんと作ったスケート人形を浮かべ、当時八戸で開催された初めてのスケート大会を10分の1サイズで再現しました。



●勘太郎堤跡探検ツアー●

かつて勘太郎堤があった旧柏崎小学校周辺には、今も勘太郎堤のあった痕跡が残ります。歴史楽者の古館光治さんと当時の地図を片手に、なぜ昔の人はここでスケートを始めたのかを探るツアーを開催。



アーカイブ展示、アーティストトークの様子

協力：穂積建設工業株式会社、ライズペーパー株式会社、エスプロモ株式会社、柏崎公民館、柏崎地区町内会、社会福祉法人みやぎ会デイサービスセンターばんちょう、東カングランドマンション八戸、八戸市教育委員会、岡田寿史、河原木浩、橋本恭二、久水英一、古館光治